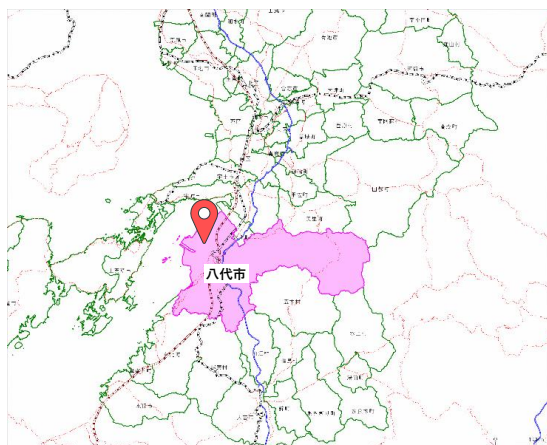


八代市消防団女性団員の活躍 —全国女性消防操法大会2連覇に寄せて—

八代市消防団

1. はじめに

八代市消防団が設置されている熊本県八代市は、熊本市の南40kmに位置し、市域は東西約50km、南北約30kmにわたり、約681km²もの面積を有しています。東は九州山地の脊梁地帯を形成して宮崎県に接し、西は八代海を隔てて天草諸島を望みます。日本三急流の一つである球磨川の河口に位置する八代平野は、球磨川と氷川などから流下した土砂が堆積してできた扇状地と三角州を基部とした沖積平野、及び藩政時代から行われてきた干拓地事業により形成された平野です。一級河川の球磨川、二級河川の氷川がもたらす豊富で良質な水の恩恵を受け、全国有数の農産物の生産地、熊本県内有数の工業都市として発展を続けてきました。



八代市 位置図

2. 八代市消防団

八代市消防団は、平成17年8月の1市2町3村による市町村合併とともに、八代市消防団、坂本村消防団、千丁町消防団、鏡町消防団、東陽村消防団、泉村消防団を統合し、新たな「八代市消防団」となり、現在に至ります。令和6年4月1日現在、山本 一樹 団長を筆頭に団員2,020名を数え、うち33名の女性団員が所属しています。

3. 女性団員の活躍

本市内における女性団員は、総合防災訓練への参加や住民参加型防災訓練、市防災フェスタ、消防出初式をはじめとした訓練や式典に積極的に参加するほか、操法技術の習得を目的として操法大会へも積極的に出場し、全国女性消防操法大会では、第24回（横浜市開催）大会

と第25回（東京都開催）大会において2連覇という快挙を成し遂げています。人口減少、高齢化が進む本市では、消防団員の確保や加入促進も難しい状況にありますが、訓練や操法大会などへの積極的な参加と活躍により、地域住民をはじめとした県内外への活躍機会が増え、本市消防団のPRに大きく貢献しています。さらに、これまでの女性団員による消防団への加入促進やPR活動もあり、八代市消防団として令和5年度消防団地域貢献表彰を受賞することができました。また、4月19日には、岸田内閣総理大臣を表敬訪問し、女性消防隊の全国女性消防操法大会2連覇と八代市消防団の消防団地域貢献表彰受賞の報告を行いました。



市防災フェスタの様子①



市防災フェスタの様子②



岸田内閣総理大臣への表敬訪問

4. 全国大会2連覇を達成して（出場隊員コメント）

▽ 本部女性消防隊 隊長 笠田 佳子

私は、女性消防隊発足前から消防団に団員として入団し、本年で24年目になります。平成15年女性隊発足以来、市出初式をはじめ、県・市防災訓練、各校区住民参加型防災訓練、その他市の行事、広域消防本部イベント、独自の活動等に隊長として務めを果たして参りました。個人的には、男性団員に交じって夜中の火災に出動し、65mmホースを担ぎ、消火活動に精を出した時期もありました。また、男性団員と共に消防学校に泊まりで厳しい訓練を2回受けた経験も今では懐かしい良い思い出です。平成16年に小型ポンプを配備され、出初式で初放水、短期間で操法技術を習得し、その年には地域住民の方々に披露しました。大会には、第2回熊本県女性消防操法大会に初出場し、個人で指揮者賞を頂きました。全国大会は平成28年、平成31年、令和5年と出場させて頂き、初大会ではミスで逃しましたが、今回2連覇を果たす事ができ、選手が感激の涙を流しました。素晴らしい技術を持つ指導者の元、それに応えた選手の並々ならぬ努力の賜物だと思っております。それに携われ、補助できたことは何より私の誇りです。何はともなれ、消防団活動が大好きだったということに尽きると 생각합니다。私たちにできること、それぞれに意見はあると思いますが操法への意気込みも活性につながる一つだと考えております。

▽ 本部女性消防隊 指揮者 邑上 由衣

私が消防団の活動に興味を持ったのは、前回大会（第24回）に高校の同級生が出場し、見事優勝した便りが届いた頃でした。高校時代ソフトボール部に所属し、日本一を目指して毎日一緒に白球を追いかけた戦友が、消防団の大会で結果を残すことができたことを誇らしく感じました。高校時代に成し得なかった夢を叶えることができたことに羨ましさも感じていました。そんなとき、2番員の野田団員とたまたま仕事で一緒になり「全国に忘れ物を取りに行かないか？」仕事終わりに消防活動に対する熱い思いをプレゼンされ、その数時間後には「もう一度日本一を目指し、八代に貢献していこう！」と約束を交わしていたのは昨日のこのように覚えています。熱い想いに人は動くのだと体感しました。ご指導いただいた団員の先輩方、理解を示してくださった職場や、温かくサポートしていただいた地域の皆様方に、まずは結果をもって恩返しできたことがとても嬉しかったです。訓練中、焦りから思い描く操法ができないとき、原点に戻るため言葉にして目標を確かめ合い「八代のために私たちができることを精一杯やろう！」と再確認しながら訓練してきました。「言語化することがこんなにも自分を鼓舞してくれるものなんだ」と、操法を通じて知るこ

とができました。今大会よりメンバーに加わった新参者でしたが、周りが毎回伝えてくれることで目標を見失わず前進することができたように思います。

▽ 本部女性消防隊 1番員 野村 絵美

私は令和元年度に消防団に入団しました。入団したきっかけは2番員の野田団員の存在です。野田団員とは同級生で中高と同じ部活動の仲間でした。仕事・子育てをしながら消防団として地域貢献や活躍している姿をみて、「私も一緒に地域貢献したい」という思いから消防団としての活動が始まりました。仕事・子育てをしながらの活動は大変でしたが、操法大会や市防災フェスタなどを通して様々な方との関わりや出会い・子どもたちにも活躍している姿を見せることができ、今では私生活にもプラスとなっています。消防団活動を通して、職場では訓練の大切を伝えたり、実際に起こった近隣の火災では怪我人を一人も出すことなく避難・指示をすることができました。今後も初心の気持ちを忘れず消防活動に参加し地域貢献できるようにしていきたいです。

▽ 本部女性消防隊 2番員 野田 貴美子

私は、八代市消防団に所属し、今年で20年目を迎えました。これまで長きに渡り、消防団に所属し、活動に邁進出来てきたのは、父の存在が大きく影響しています。私の父は、地元八代市の消防職員として42年間、消防業務に従事して参りました。父は、特に消防団への操法指導に関して、大変力を注いでおりました。私も幼いころより、父に手を引かれて、消防操法の訓練を見学させていただく機会も多く、「消防団」という組織が大変身近なものでありました。高校を卒業した春に、父の勧めによって消防団へ入団し、活動を開始致しました。当時は、八代市消防団女性消防隊（以下、女性消防隊という）に所属し活動を行って参りました。女性消防隊では、防火に対する啓発活動を中心に行って参りましたが、その中で軽可搬ポンプと出会いました。始めた当初は、八代市は大変弱小で、県大会に出てもビリ。そんな日々が約10年間続きました。しかし、父が「いつか必ず八代が全国へ。八代が日本一になれるように頑張らなきゃいけないよ！お前がチームを率いていくんだぞ」と私の背中を押し続けてくれました。私はその言葉を体現したい、父の夢を叶えてあげたいと自分自身を鼓舞し、仲間を募り、現在のチームを編成するに至りました。そこから、紆余曲折しながら、現在所属しております八代市消防団本分団へチームの仲間達と移籍し、防災フェスタへの参加や様々な活動を続けて参りました。これまで計3回、全国大会へ出場させていただく中で、全国2連覇を達成できたのは、もちろん仲間達と積み重ねてきた努力や指導者、サポートしてくれた多くの方々のおかげであり、心から

感謝しております。しかし、その中で私の心の支えとして、父が私に伝えてくれた言葉の数々、「地元八代に貢献できる人であれ」と幼き頃より私を導いてくれたからこそ、今の私があるのだと思っております。私は父から伝承されたその強い思いを心の軸として仲間とともに消防団員として愛する地元八代市に貢献していきたいと強く思っております。

▽ 本部女性消防隊 3 番員 那須 あゆみ

私が消防団に入団したのは、高校時代の部活動（ソフトボール）の大先輩でもある 2 番員の野田団員から誘っていただいたことがきっかけです。「操法で一緒に全国を目指してほしい」と熱い思いをぶつけられて、そこから一緒に夢を目指す日々が始まり、気付けば10年目を迎えました。高校時代はソフトボールで「地域に愛されるチーム」が部訓にもあり、地域のひととの日々の関わりやソフトボールでの活躍が、自分たちにできる地域貢献だと信じ邁進していましたが、大人になって仕事以外にも操法（消防団活動）という地域貢献の形があるのだと実感し、活動にやりがいを感じています。私たちのチームの選手は、職業もバラバラで、母として子育てや家事をしながら仕事もバリバリ頑張る先輩や、電車で片道1時間かけて通勤しながら操法訓練も休まず頑張る先輩がいて、皆それぞれに大変多忙な人の集まりです。それなのに、このチームの仲間が発する言葉は、いつも前向きな言葉が多いです。「大変だけど楽しい」、「あなたならできるよ！大丈夫！」、「八代のために、私たちができることを全力でやろう！」ブレない目標と目的を、常に言葉にして確かめ合ってきたからこそ、チームが一つになり全国大会連覇を成し遂げることができたと思います。全国の頂を目指すチームでの訓練は、もちろん選手だけでなく指導者や女性隊員、各方面隊の男性分団員や消防・行政等、多くの関係者の皆様の協力・支えがあったからこそ、技術を磨くことができたと感じています。また、訓練を通じて関係者との横の繋がりができ、操法以外の消防団活動にも活かされているのではないかと思います。全国大会で優勝し、更に連覇を達成したことで、八代、そして熊本の名前が少しでも全国に広がり、地元にも明るい話題として地域貢献できていれば、これ以上の幸せです。これからも、仕事だけでなく、私が地域に貢献できること（誰かに元気と明るい話題をもたらせるもの）として、操法や防災啓発など消防団活動に積極的に取り組み、地域の方と繋がりを持ちながら八代での地域貢献ができたと思います。

▽ 本部女性消防隊 4 番員 篠原 典子

私が消防団に入団したきっかけは、近所のママ友だった 2 番員の野田団員から誘われたことです。現在入団し

て9年目で、これまで3回全国大会に出場させていただきました。その間に、第3子を産み、3人の子育てと仕事、そして操法訓練の3刀流で、毎日が台風のように過ぎ去り、自分の体力も気持ちも限界ギリギリで過ごした日々でした。全国の一番を目指すチームでの訓練は、厳しいながらも楽しく、家庭や仕事の都合で訓練に行けないことも多々ありましたが、仲間に支えられて頑張ることができました。何より、子供たちの理解・支えがあったから、ここまで操法を頑張ることができたと感じています。ときには訓練に子どもたちと一緒に連れていくこともあり、訓練を見て知らず知らずの間に覚えてたらしい指揮者の台詞を、家で子どもが話すこともあり、思わず笑いが出たこともありました。家族には本当に感謝でいっぱいです。初めて全国大会に出場した第22回大会では、本番でエンジンがかからず、悔しくて涙が止まらなかったことは今でも忘れられません。それでも、あの時の悔しさと終わらず、器具点検の徹底を訓練時からしっかり確認し、2度目の全国大会では訓練どおりの操法ができ優勝を果たすことができました。そして3度目の全国大会では、総合優勝にあわせて優秀選手賞もいただき、これまでの苦労や悔しさが全て報われた気がしました。全国大会で2連覇を達成したことで、職場でも明るい話題になり、仕事以外でも八代に貢献できたのではないかと感じて大変嬉しく思います。これからも、操法だけでなく、防災の啓発など消防団活動に積極的に取り組み八代での地域貢献ができたと思います。



全国女性消防操法大会①



全国女性消防操法大会②